

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 〔知識及び技能〕 ◆言葉の特徴や使い方に関する事項 全国平均に比べ、下回っている。 ◆情報の扱い方に関する事項 全国平均に比べ、下回っている。 〔思考力、判断力、表現力等〕 ◆話すこと・聞くこと 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る。 ◆書くこと ほぼ同程度であるが、やや上回る。 ◆読むこと 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る。	●助動詞の働きと単語の活用について正しく理解すること。 ●情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができること。 ●必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること。 ●表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができること。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができること。	○授業の中で文法を復習する時間を設けるとともに、文法が定着しているのかを振り返る場面を設定する。 ○複数の情報を整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って情報をまとめる活動を継続的に行う。 ○話し手の話に耳を傾け、質問の仕方を工夫しながら対話するように活動を推進する。 ○課題に沿って文章を推敲し、読み手からの助言などを踏まえ、文章を整える活動を推進する。 ○文章を読んで理解したことや考えたことを、自分の経験や知識と結び付けて文章にする活動を推進する。

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 ◆「数と式」 全国平均に比べ、下回っている。	●数学的な課題を読み取って式を立てたり、式の意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること。	○数学的な課題を整理して、自ら文字を設定し式に表したり、目的に応じて式を変形させ事柄が成り立つ理由を説明したりする活動の充実。
◆「図形」 全国平均に比べ、下回っている。	●証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすこと。	○基本的な図形の性質を理解し、それを仮定として、新たな図形の性質について筋道を立てて考え、証明する活動の充実。
◆「関数」 全国平均に比べ、下回っている。	●与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。	○表、グラフ、式を相互に関連付けて考察し、適切な形で表現する活動の充実。
◆「データの活用」 全国平均に比べ、下回っている。	●データの活用に関する用語の意味を正しく理解し、表や図からデータの傾向を適切に捉え説明すること。	○具体的な活動を通して、データの活用に関する用語を正しく理解すると同時に、表や図からデータの傾向を適切に捉え、それを数学的に説明する活動の充実。

今回の調査における課題	改善の方向
●社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えること ●日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること ●日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えること ●音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること ●日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる ●日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すこと	○日常的な話題だけでなく、社会的な話題について、聞く機会を充実させる。 ○英文の構成を知り、パラグラフリーディングの知識を身に付ける。 ○意見や自分の考えを書くために必要な表現を練習する。 ○既習表現を使い、まとまりのある文章を書く練習をする。 ○日常的、社会的な話題について、ペアトークやスピーチをする機会を充実させる。

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果

生徒質問紙調査結果について（もみじ台中学校）

1. 生活習慣に関すること

質 問 項 目	もみじ台中	北海道	全国
① 朝食を毎日食べている	75.0	75.4	78.4
② 毎日、同じくらいの時刻に寝ている	36.8	35.1	34.9
③ 毎日、同じくらいの時刻に起きている	64.5	55.8	55.4
④ 平日にスマートフォン等で 4 時間以上、SNS や動画視聴などをしている（※R08新設）	34.2	34.5	28.8

※①～③は「している」と答えた割合（％） ※④は「4 時間以上」と答えた割合（％）

【全体的な傾向や今後の改善の方向】

③の起床時刻に関して、前年度（55.6％）から8.9ポイントと大幅に向上し、全道や全国平均を大きく上回る極めて良好な結果（64.5％）となりました。②の就寝時刻についても、前年度（33.3％）より3.5ポイント向上しており、生活リズムの固定化が進んでいると言えます。一方で、朝食を毎日食べている生徒の割合（①）は前年度（81.5％）から6.5ポイント低下し、全道・全国平均を下回る結果となりました。

さらに、スマートフォン等での SNS ・動画視聴時間（④）においては、平日「4 時間以上」視聴する超長時間利用者の割合が34.2％に達し、全国平均（28.8％）を5.4ポイント上回る高い数値を示しました。夜間の過度なスマホ利用は就寝時刻の不規則さ（本校生徒の22.3％が不規則）や慢性的な睡眠不足、家庭学習時間の圧迫につながっている可能性があります。今後は学校と家庭が密に連携し、家庭内でのスマホ利用のルール作りや「寝る前スマホオフ」などの具体的な自律的改善に向けた啓発活動を推進していく必要があります。

2. 自己肯定感や自己有用感、将来に関すること

質 問 項 目	もみじ台中	北海道	全国
① 自分には、よいところがあると思いますか	85.5	84.4	84.0
② 将来の夢や目標を持っていますか	65.8	67.2	67.6
③ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	93.4	95.6	95.9

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合（％）

【全体的な傾向や今後の改善の方向】

自己肯定感に関する項目（①）については、前年度（86.4%）からほぼ横ばいの高い水準（85.5%）を維持しており、今年度も全道（84.4%）や全国平均（84.0%）を上回る本校の強みとなっています。生徒たちが自身の良さを肯定的かつ健全に捉えられている傾向は、引き続き評価できる特徴です。

しかし、将来の夢や目標の有無（②）は前年度（72.8%）から7.0ポイント低下し、他者への貢献意欲（③）についても前年度（98.8%）から5.4ポイント低下して、いずれも全道・全国平均をやや下回る結果となりました。道德の授業における対話活動や、体系的なキャリア学習の充実を図り、生徒たちが将来への希望や共助の精神をよりリアルに、豊かに育めるような教育課程上のアプローチについて考えていく必要があります。

3. 学習への取り組みに関すること

質 問 項 目	もみじ台中	北海道	全国
① 学校の授業時間以外に、普段2時間以上勉強している	39.4	22.9	30.1
② 話し合う活動を通じ、自分の考えを深め、広げている	84.2	88.0	87.0
③ 学習内容を振り返り、次の学習につなげることができている	73.7	77.9	79.0

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合（%）

※①は「3時間以上」「2時間以上3時間より少ない」と回答した割合の合計（%）

【全体的な傾向や今後の改善の方向】

普段の学校外での勉強時間が「2時間以上」である生徒の割合（①）は、前年度（30.9%）から8.5ポイントと劇的に向上し、全国平均（30.1%）や全道平均（22.9%）を大きく上回る水準（39.4%）に達しました。前年度の課題であった「家庭学習時間が1時間未満の生徒が40%いる」という状況についても、今年度は**36.8%に減少（3.2ポイント改善）**しており、家庭における自主学習の習慣化に進展が見られます。

一方で、前年度に全道・全国平均を10ポイント以上上回っていた「学習の振り返り（③）」（前年度83.9%）は、今年度は73.7%へと10.2ポイント低下し、全国平均を下回る結果となりました。また、授業中の「話し合い活動（②）」についても、前年度（87.7%）から3.5ポイント低下し、全道・全国平均を下回っています。

家庭での自主的な学習習慣は確立されつつありますが、授業における「質の高い振り返り（AARサイクル）の徹底」や「他者と関わり合いながら学びを深める協働学習」といった部分に課題があることがわかりました。今後は、授業内での対話的な学びと、自分自身の学習プロセスを振り返る活動の充実を図ることで、学習内容をより深い定着へとつなげていく必要があります。